



【主催】こども発達支援専門員

子ども発達支援専門員 養成講座 説明会

前半：講座概要の紹介(25分)/後半：質疑応答(20分)

チャットは常に解放しております。
疑問点、質問などは遠慮なくご投稿ください。

一社)こども発達支援研究会
担当：前田智行

1

こども発達支援研究会の活動

研修事業



研究事業



職員育成事業 子ども発達支援専門員

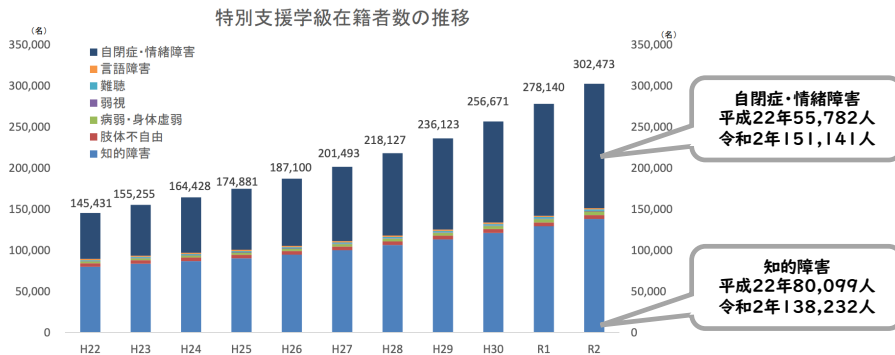


コミュニティ事業 こはスク



2

特別支援学級の児童生徒数・学校数の推移 (各年度5月1日現在)



【令和2年度の状況】

	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	弱視	難聴	言語障害	自閉症・情緒障害	計
学級数	29,162	3,150	2,518	537	1,294	707	29,287	66,655
在籍者数	138,232	4,685	4,312	643	1,965	1,495	151,141	302,473

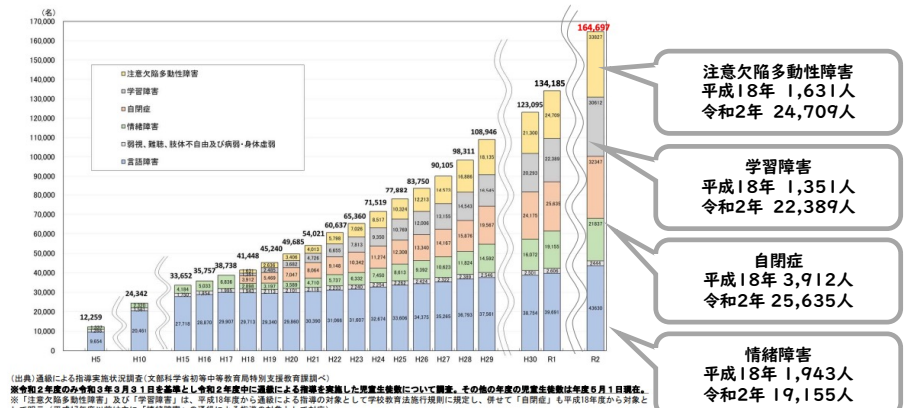
(出典)学校基本統計

3

通級による指導を受けている児童生徒数の推移



通級による指導を受けている児童生徒数の推移(各年度5月1日現在)



(出典)通級による指導実施状況調査(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課調べ)

※令和2年度のみ令和2年3月31日を基準とし令和2年度中に通級による指導を受けた児童生徒数について調査。その他の年度の児童生徒数は年度5月1日現在。

※「注意欠陥多動性障害」及び「学習障害」は、平成18年度から通級による指導の対象として学校教育法施行規則に規定し、併せて「自閉症」も平成18年度から対象として明示(平成17年度以前は主に「情緒障害」の通級による指導の対象として対応)。

※平成30年度から、国立・私立学校を含めて調査。

※実業学校における通級による指導は平成30年度開始であることから、高等学校については平成30年度から計上。

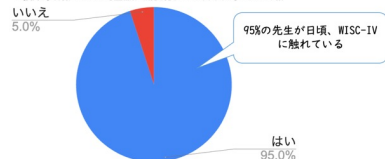
※小学校には養育教育学校前期課程、中学校には養育教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程、高等学校には中等教育学校後期課程を含める。

7

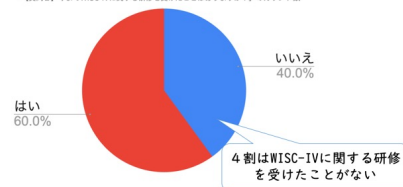
4

支援者養成の課題

「【質問3】日頃、WISC-IVの検査結果・所見を見ることはありますか?」のカウンタ数



「【質問2】今までWISC-IVに関する研修を受けたことはありますか?」のカウンタ数



参考: 通級指導教員42名へのアンケート(前田, 2023)

特別支援の現場では知能検査の知見は必須
→現場の研修が追いついていない(福祉現場はさらに過酷)

5

【2025年開始】 子ども発達支援専門員養成講座 概要

基礎編

発達障害支援コース

発展編

アセスメント
支援コース

ペアトレ
コース

感覚統合
コース

児童福祉
コース

学習支援
コース

不登校支援
コース

授業UD
コース

ことばの発達
支援コース

活動の幅を
広げたい方へ

機関研究員養成コース

基礎・発展を修了
=子ども発達支援専門員の認定

6

年4回/3か月毎に開講

冬の養成講座
(1~3月)

春の養成講座
(4~6月)

夏の養成講座
(7~9月)

秋の養成講座
(10~12月)



○ 期間: 3ヶ月間
・10月4日(土): 講座開始
・12月25日(木): 講座修了

7

子ども発達支援専門員養成講座の特徴

エビデンス×現場での活用

ニーズに合わせたコース設定

オンラインで全国どこでも学習可能

8

子ども発達支援専門員養成講座の特徴 ～エビデンス×現場での活用～



学術の知見を持った教育・福祉・医療
のメンバーが開発



現場で困りやすいポイントを押さえた
カリキュラム

9

子ども発達支援専門員養成講座の特徴 ～ニーズに合わせたコース設定～



現在、複数の学会で発達障害に
特化したカリキュラム案も出ている

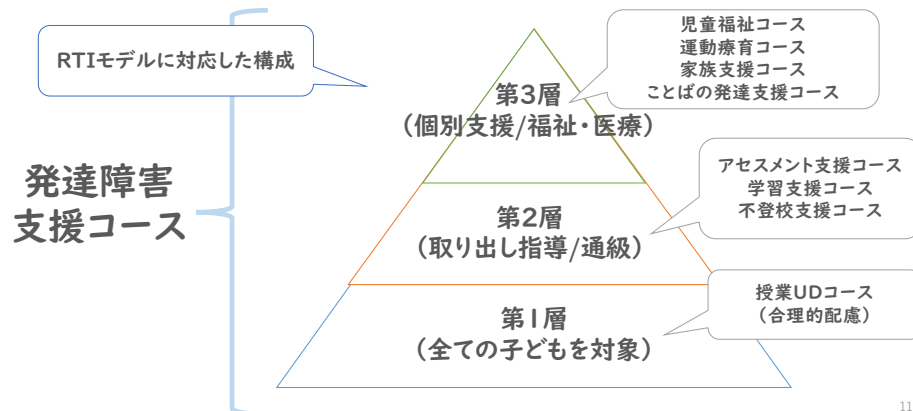
現在、特別支援学校教員免許
公認心理師、医師
作業療法士、言語聴覚士など



急増する発達障害の分野に特化した
国家資格(準ずる資格)が存在しない

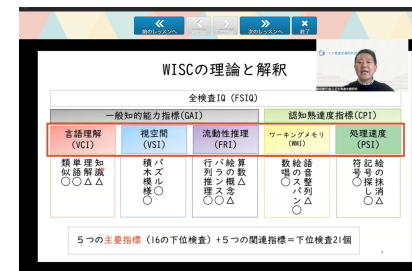
10

子ども発達支援専門員養成講座の特徴 ～ニーズに合わせたコース設定～



11

子ども発達支援専門員養成講座の特徴 ～オンラインで全国どこでも学習可能～



E-learningコース



ワークショップ演習コース

12

E-learning講座



講座タイトル

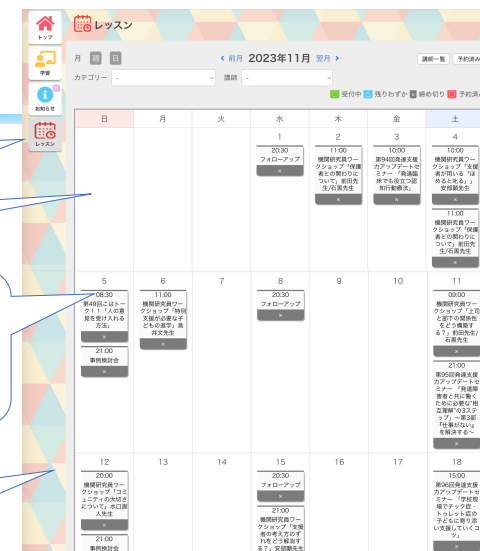
講義動画クリック→再生
(速度変換:0.5倍~2倍)

資料のダウンロード可能

講座終了後→修了テスト
(合格後、次のコースへ)

13

ワークショップ



「レッスン」をクリック

開講講座をクリック/申し込み

- 機関研究員ワークショップ
- 機関研究員の対談セミナー
- 専門家セミナー
- 実践発表会(カラフル研究室)
- フォローアップ

受講後レポートの提出
3単位で合格

14

秋期の専門家セミナー

10/5(日) 10:00~12:00	後藤隆章先生 (横浜国立大学 准教授)	学習困難な子どもの読み書き学習支援 ～仮名文字、漢字の習得をどうサポートするか～
10/20(月) 18:00~19:30	バーバラ・オグリ先生 (オークランド大学教授)	Learning How to Learn (学び方を学ぶ) ～神経科学が教える実践的学習戦略とは?～
10/25(土) 10:00~12:00	足立匡基先生 (明治学院大学 心理学部准教授)	国・学校でできる発達障害とメンタルヘルスを考える
11/19(土) 10:00~11:30	河村優詞(小学校特別支援学級担任・ 環太平洋大学非常勤講師)	特別支援学級における学習支援の科学的アプローチ ～読み書き・算数指導の実際～
12/6(土) 10:00~11:30	小野真樹先生(愛知県医療療育総合 センター中央病院 児童精神科部長)	発達障害とトラウマ
12/7(日) 10:00~11:30	神尾陽子先生 (小児科医・神尾陽子クリニック)	国・学校での自閉スペクトラム症の不安・メンタルヘルスの課題をどう支援するか?
12/14(日) 10:00~11:30	船渡川智之先生 (東邦大学医学部)	学校で思春期の子どものメンタルヘルスの課題をどう支援するか?

オンラインで全国どこでも学習可能 ～Eラーニングカリキュラム～

基礎コース/発達障害支援コース(対象:発達支援従事者)
発達障害支援概論
応用行動分析概論
認知行動療法概論
自閉スペクトラム症概論
ADHD支援概論
限極性学習症の支援
知的障害・知的発達症の支援
コミュニケーション症の支援
チック症・トゥレット症の支援
発達性協調運動症の支援
知的障害概論
二次障害概論概論
場面緘黙症概論
ソーシャルスキルトレーニング概論
行動観察演習

3つの特徴

Eラーニングは1回15~20分
→短時間で集中して学習

講座毎に確認テスト(複数回受講可)
→知識の定着

講義の中には演習も配置

16

オンラインで全国どこでも学習可能 ～Eラーニングカリキュラム～

(発展) アセスメント支援コース	(発展) ペアトレコース
対象: 年中～中学生の支援に関わっている支援者	対象: (2歳～10歳) 保護者に関わっている支援者
発達支援におけるアセスメントの理論	保護者支援の理論
WISCの理論～主要指標～	ペアトレ概論
WISCの理論～下位検査～	ペアトレ①「行動を3つに分ける」
WISCの解釈①	ペアトレ②「望ましい行動への対応」
WISCの解釈②	ペアトレ③「できればやめてほしい行動への対応」
SP/感覚プロファイルの理論	ペアトレ④「やめてほしい行動への対応」
SP/感覚プロファイルの解釈①	ペアトレ⑤「園・学校との連携」
SP/感覚プロファイルの解釈②	ファシリテーション概論①
適応行動の理論～S-M社会生活能力検査～	ファシリテーション概論②
適応行動の理論～Vineland- II～	付属資料解説
適応行動の解釈	
アセスメント演習	

17

オンラインで全国どこでも学習可能 ～Eラーニングカリキュラム～

(発展) 感覚統合コース	機関研究員養成コース
対象: 運動療育に興味のある支援者(0～18歳) 身体面から行う学習・生活動作支援に興味のある支援者	対象: 子ども発達支援専門員養成講座合格者 アウトプットを通して成長したい人、世の中に知見を広めたい人
感覚統合の理論	(初回) 講師ミーティング
原始感覚の理論と支援	グループディスカッション
識別感覚の理論と支援	グループディスカッションレポート
姿勢の発達と支援	事例検討概論①
視機能発達とビジョントレーニング	事例検討演習②
自己刺激行動の理解と支援	実践発表概論①
感覚のアセスメント-JSI-R	実践発表演習②
感覚のアセスメント-感覚プロファイル	(最終) 講師ミーティング
ケース～乳幼児期～	
ケース～学童期～	

18

機関研究員養成コース

合格後-機関研究員への就任
当法人と提携して、共に活動していきます

- 各種講演・研修のご依頼
- 年次大会での活動
- 書籍・記事の執筆依頼
- ペアレントトレーニング講師依頼
- 教材開発/学習支援教材等の開発
- こはスク内での活動
- 共同研究の提案・推進

機関研究員

子ども発達支援専門員



各種活動には報酬も設定されています

個人の活動も積極的に応援します

19

講座修了後～2つの案内～



修了証の送付

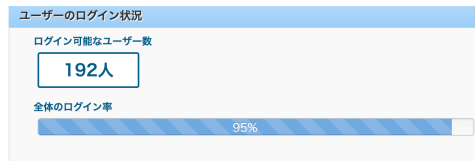


子ども発達支援専門員＝半額参加
機関研究員＝無料参加

20

現在までの受講者

(2020年～2024年まで)
子ども発達支援専門員合格者329名
機関研究員約113名
今期(2025年夏の講座:192名受講中)



21

受講生の声

本講座で巡り合った、1つひとつの知識や出来事は、教員が「安心感」を提供するための大事な裏付けになるものです。教員一人ひとりが、困難な状況を抱えながらも、明るく前向きに、子どもたちや保護者に向き合うことができ、良質な「安心感」を与えられるかがカギになっていると感じています。
(30代/小学校特別支援学級担任)



教育現場では支援が必要な子を目の前にしても、専門的な知識をいから詳しく学ぶ機会がないので、この講座で学んだ知識は今後の教員人生で大いに役立つと思います。一つの講座が短時間で区切られていること、チェックテストで振り返ることができたことなど、学びやすい設定もすごく良かったです。
(40代/中学校 特別支援級担任)



22

受講生の声

どのように勉強すればいいのかわからず、手あたり次第に本を読んだり講演を探したりしている時に友人からの紹介でこの講座を知りました。子どもにかかわる大人の一人として、将来を担う子どもへの責任から、確かな知識を得てより適切に関わっていきたいと思っていました。この講座受講は私にとってモチベーションの維持向上につながっています。
(40代/保育士)



今回発達障害について基礎から学び直しをさせて頂いた事で一人一人のお子さまについてより深く観察したい、ご家族と発達障害や二次障害について共に理解を深めたいという自信と前向きな気持ちが芽生えました。基礎に立ち返り、資料を振り返りながら実践に活かしていきます。前田先生の講義は事例を交え、大変わかりやすいテンポでお話下さり、毎回の学びが楽しみでした。
(30代/児発管)



23

受講生の声

最新の知見をわかりやすく教えて頂き、感謝しています。具体的な支援方法など、書籍を読んでも分からないことが多く、前田先生の経験談を交えたお話がとても参考になりました。日々の業務が忙しく、この発達障害支援コースを受講することで限られた時間で効率よく勉強することが出来てありがたかったです。
(40代/精神科 作業療法士)



講義では、事例を交えながらご説明いただいたことで、実際の支援に取り入れやすく、非常にわかりやすかったです。また、ワークショップでは、意見交換のなかで毎回新しい発見があり、視野が広がったと感じました。様々な職種、職域の方と話せたことも貴重な機会になりました。
(50代/保健師)



24

受講費用

受講コース	コース内容	期間	費用
基礎コース	発達障害支援コース	3ヶ月	49,800円 (税込54,780円)
発展コース	ベアトレコース/感覚統合コース	3ヶ月	53,800円 (税込59,180円)
	アセスメント支援コース	3ヶ月	74,800円 (税込82,280円)
機関研究員コース	機関研究員養成コース	3ヶ月	29,800円 (税込32,780円)
子ども発達支援専門員 セット割	発達障害支援コース+ベアトレコース/感覚統合コース	6ヶ月	113,960円+104,800円 (税込) (約7,000円割引)
	発達障害支援コース+アセスメント支援コース	6ヶ月	137,060円+129,800円 (税込) (約7,000円割引)
機関研究員 セット割	発達障害支援コース+ベアトレコース/感覚統合コース +機関研究員養成コース	9ヶ月	146,740円+129,800円 (税込) (約17,000円割引)
	発達障害支援コース+アセスメント支援コース +機関研究員養成コース	9ヶ月	169,840円+149,800円 (税込) (約20,000円割引)

25

終わりに

発達支援をもっと楽しく



26